

* 遊 空 間 *



〜4〜

延徳3(1491)年、大浦光信公は、南部(岩手県久慈市)から36人の武将を率いて、種里の地区に入部した。光信公は種里城を居城として、赤石周辺の豪族との合戦を制しながら、津軽平野に進出して大浦城津軽中学校などを築城し、津軽統一の礎をつくった。大浦光信公と家来は、どこを歩いて百沢街道に出て、旧岩木町までたどったのか。

古図、古老の話や県の土木事務所、津軽森林管理署の林班図を探索しながら、ついこのコースだろうという「古道」を発見した。種里城史跡の前の入り口には、国の史跡と書いてある。「津軽藩発祥の地」の石碑もある。坂を駆け上ると、二代信枚公の時代に近衛家との縁で、近衛家の家紋でもある「牡丹家紋」が津軽家の家紋となり、この地に「牡丹園」ができた由来が書いてある。

坂の上の牡丹園の前には、光信公の銅像が岩木山の方向に軍配を持って「い

種里地区にみる津軽藩発祥の地

光信公に想いをはせ

ざ出陣」と叫んでいるように建っている...と見えるのは私だけだろうか。そこから鬼袋地区を通り、小森地区の熊野神社の前を通り、その先にある恩愛沢川沿いを林道に入っていく、途中に大畑山の神社が右側にある。そこから間もなく恩愛沢

の川を渡り、山道を登っていくと古道らしい道が見えてくる。この大畑山は二つに分かれていて、岩木山とけんかして岩木山の刀が大畑山に当たって二つに割れたと言いつたらしい。種里城に居城を構え、堀越城、そして弘前城と津軽平野を治めた大きな津軽藩は、その後弘前藩となっていた。津軽が統一するまで勢力争いは続いたと推察する。その間、大浦光信は絶

えず日本海の夕日やご来光を見ては、故郷の種里城を仰いでいたのではないかと推察しながら、ブナやコナラ、ミズナラの古道のある森を6kmほどウォーキングすると、黒森地区の山の神社の前に出る。そこからは黒森のバス停前を通り、古い青い屋根の地区の民家の前を通り、光信公が一休みをした時に使われた水飲み場を散策して終了というウォーキングツアーを実施している。

この種里城と堀越城、そして、現在の弘前公園にある弘前城が、岩木山の脇を通り一直線になっているように見えるのは、何か不思議に思

に着いた時に、白神自然学校の農家レストランで作っている「種里城」という金の鮎を使った弁当

う。(NPO法人白神自然学校一ツ森校長 永井雄人)



古道をウォーキング中



恩愛沢川を、臨時の橋を架けて渡る参加者